

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年10月26日

【評価実施概要】

事業所番号	290100064		
法人名	有限会社ながしま		
事業所名	グループホームながしま		
所在地 (電話番号)	〒030-0861 青森県青森市長島4丁目22-19 (電話) 017-763-4100		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 9月 20日	評価確定日	平成 19年 10月 26日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 12月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17 人, 非常勤 人, 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造陸屋根造り		
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,200 円

(4) 利用者の概要(8月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.7 歳	最低	52 歳	最高	89 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	森山内科クリニック・仲條歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設が昨年12月と未だ一年経っていない為職員は色々工夫しながら日々の業務に取り組んでいる。しかし、すでに地域との関係づくりが出来ており、夏祭りには沢山の参加があり交流が行われ、地域からの期待が感じられた。運営理念には地域へ密着した施設づくりの他に介護理念として「福祉の心 自立支援 利用者本位 ケアの質向上」を掲げている。又管理者は特に「利用者本位」を大切に考え、常に利用者にとって何が一番大切なことを考えたケアに取り組み、利用者、家族との信頼関係と安心感の為日々サービスの質向上に向けて取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は初回の為特記なし。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	開設後一年経っていないため全職員での自己評価の実施が出来なかったが、自己評価に携わった職員からは自身が自己評価を実施することで業務を見直す良い機会となり、評価に対する理解を得ている。又自己評価時に達成されていなかった項目に関して自己評価後改善されている等成果が出ており、サービスの向上に活かされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営委員会は2ヶ月に1回開催されており、年間のテーマを決め計画的に行われている。又施設側からは、ホームの状況説明等を行い地域への理解が得られるよう、努めている。運営推進委員との協力体制も出来ており、行事への協力も得られ、サービスの質向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	玄関に苦情箱を設置し、意見、要望が出しやすいようにしている。家族から出された要望に関しては、直ぐに対応し改善に努めている。家族へは面会の都度利用者の近況報告を行い不安のないよう努めている。又金銭管理に関しても、家族に入金時出納確認を得る等信頼関係に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設後一年経っていないが地域の理解が得られ、ホーム主催の夏祭りには、婦人部の方をはじめ、多数の参加があった。町内で行われた食事会や敬老会へも招待されるなど日常的な付き合いも出来ている。又広報誌によりホームの情報を発信する等地域に密着した施設作りに努めている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域へ密着した施設作りを理念に掲げた他に介護理念として、福祉の心 自立支援 利用者本位 ケアの質の向上についての理念を独自に作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は職員会議にて理念の共有をしている。また理念は各フロアに掲示し、利用者本位、利用者を常に一番に考えたケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	開設後一年経っていないが地域の理解が得られ、ホーム主催の夏祭りには、婦人部の方をはじめ、多数の参加があった。町会で行われた食事会や敬老会へも招待されるなど日常的な付き合いも出来ている。また認知症対応施設として、実習生の受け入れも行って		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設後一年経っていない為今回の自己評価は職員の一部のみ関わっており、全職員の共有化が図られていない。		自己評価は職員が日々行っていることを見直す良い機会であり、全職員で取り組むことが望まれます。また外部評価結果は今後の課題として全職員と共有し、今以上のサービスの質の向上を図ることを期待します。
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施していくように、年間のテーマも決め、計画的に行われている。夏祭り等の行事への協力が得られる等、サービス向上に活かされている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村へ、状況報告は随時行われている。また解らないことは積極的に聞きサービスの向上に取り組んでいる。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在地域福祉権利擁護事業福祉サービスを2名が利用している。今後も必要に応じて前向きに取り組んでいく姿勢である。また職員の勉強会も予定されている。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や身体拘束は絶対にあってはならないこととして、管理者が職員に常に話し、防止に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者、家族へ十分に説明し、不安のないよう努めている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は面会の都度利用者の健康状態や近況を報告している。また年4回広報誌を発行し日々の生活を報告している。金銭管理に関しては入金時に家族に確認してもらい、サインをもらっている。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置し、意見、要望が出やすいようにしている。家族から、たばこの喫煙場所やおむつ外し等の要望が出された時は直ぐに対応している。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットは職員を固定化し馴染みの関係作りに努め、出来るだけ異動がないようにしている。また新しい職員が入った時は利用者きちんと説明している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修を計画的に行っている。また外部の研修参加後は、学んできたことを職員会議で報告している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が東青地区のグループホーム協会の会長となっている為管理者同士の交流があり、情報は得やすい状態にありサービスの向上に活かされているが、職員の交流は未だ実施されていない。		開設間もない為現在は管理者のみが同業者との交流がなされているが、今後は段階的にでも職員が交流する機会を持ち、同業者の取り組みなどを参考にしながら、サービスの質向上に反映出来ることを期待します。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が入居する前は必ず事前面接を行い、安心して入居出来るよう顔合わせを行っている。また利用者、家族も見学をしてからの入居となっており、相談から入居まで段階的な支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で食事の後片付けや盛り付け等利用者や職員と一緒にいる。また利用者の中で接客業をされた方がおり、職員に教えてくれる等沢山のことを学びながら、日々利用者と一緒に過ごしている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを 期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念である利用者本位を大切にしており、かかりつけ医への受診や、床屋、銀行、ショッピング等利用者の希望に即対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前の面接でアセスメントを実施し、利用者の生活歴や会話の中から、より良く暮らすため、意見や要望を聞き、介護計画を作成している。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回カンファレンスで利用者の状況確認を全職員で行っている。ケースに応じて月毎、3ヶ月毎に評価し、介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	聾啞者が1名入居されており、聾啞協会のお楽しみサービスへ毎月参加できるよう支援している。また通院、外出、外泊も自由とし柔軟に支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の希望するかかりつけ医の受診ができるよう支援している。(協力病院より多い。)</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入院については家族との話し合いで3ヶ月まで在籍の体制をとっている。現在は医療が必要な人への対応は難しいため、状態が急変した時の救急、搬送先は確保している。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>広報誌の写真掲載や部屋の表札は、利用者、家族の同意を得ている。またプライバシーを損ねるような言葉づかいに対してはその場で注意を促している。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の急な申し出(銀行に行ってお金を下ろしたり、ショッピング、散歩、床屋等)や希望にも出来る限りそえるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状況に合わせて、調理の工夫がされている。食事の準備や後片付けを職員と一緒にしている。職員は食事を一緒に食べることはしていないが見守りは行っている。		利用者と職員はテーブルで一緒に食事を摂る事はしていないが、食事中は一緒に和気藹々と会話を持ち利用者が食事を楽しめる家庭的雰囲気作りが望まれます。
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニットで入浴の曜日が違う為その日に入浴したくない時は次の日他のユニットでの入浴が可能である。シャワーは毎日使用出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事を準備する際、箸をおく人、盛り付けをする人と出来る範囲で役割がある。また散歩やショッピングの他年間行事も沢山あり、楽しみのある生活を支援している。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎週水曜日は散歩しながら、ショッピングするなど戸外へ出かけられるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>管理者から「身体拘束は絶対にしない」という強い信念が職員に浸透されており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>		
30	63	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中玄関は開放されており、地域住民や家族等が常に入りやすい状態にしている。夜のみ玄関に施錠している。</p>		
31	68	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回防災訓練を実施している。地域の方の協力に関しては今後運営推進委員会で話し合いをしていく予定である。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの状態に応じて食事の形態を工夫し、摂取しやすいようにしている。食事の献立は1階にある有料老人ホームの栄養士が作成している。食事の摂取量、水分摂取量は1人ひとり毎回チェックし記録されている。</p>		
33	75	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>玄関に消毒液を置き、手指の消毒に留意されている。また感染症に対するマニュアルがあり、直ぐ対応出来るようファイルされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間に食卓テーブルはあるが、寛げる空間が少ないようである。		スペース的な難しさもあるが、コーナーにソファーのような物を置いたり、手工芸品の飾り等を取り入れたりすることにより、生活感が醸し出され、心地よく過ごすことができるのではないかと思います。
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には利用者の個性に応じて、好みの物や馴染みの椅子等が置いてあり、居心地良い部屋となっている。		

 は、重点項目。